第１２２回　長崎大学ＦＤ実施報告書
（平成２７年１０月２０日提出）

１．題　目：長崎大学入試問題作成に関するFD

２．日　時：　平成２７年　９月２５日（金）　16：10　～18：40

３．場　所：長崎大学第２会議室（事務局３階）

４．主　催：長崎大学イノベーションセンター

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　○　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）

学力を構成する３要素として位置付けられているもののうち,「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」に焦点を当てその評価方法についての理解を深めるとともに, その背景となる大学入試改革の議論の現状についての共通認識をもつことを目的とする。

①2014 年 12 月の大学入試改革に関する中教審答申をふまえ，学力を構成する 3 要素である「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」その評価方法について解説する。

②大学入試改革に関連する種々の会議における議論の現状を解説する。

８．プログラム構成［題目・担当講師］　※　当日資料は、別添１：配布資料を参照

（司会・進行　長崎大学副学長（入試担当）星野　由雅）
○開会挨拶　　16：10～16：15　長崎大学長　片峰　茂
○趣旨説明　　16：15～16：20　長崎大学副学長（入試担当）星野由雅
○講　　演　　16：20～17：10
①『個別入試における「思考力・判断力・表現力」及び
「主体性・多様性・協働性」の評価と大学入試改革』
講師　當山　明華　助教
（長崎大学イノベーションセンター）
17：10～18：20
②『大学入試改革議論の現状』
講師　大津　起夫　教授
（独立行政法人大学入試センター）
（試験・研究副統括官（研究開発部長兼務））

○質疑応答　18：20～18：40
○閉会挨拶　長崎大学副学長（入試担当）星野　由雅

９．参加者：　３０名
（内訳）

所　　属	人　　数
医歯薬学総合研究科（医）	5
医歯薬学総合研究科（歯）	1
医歯薬学総合研究科（保）	3
国際健康開発研究科	1
工学部	１２
水産・環境科学総合研究科（環）	1
産学連携戦略本部	1
国際連携研究戦略本部	1
教育学部	3
大学教育イノベーションセンター	1
多文化社会学部	2
計	３１

※　詳細は、別添２：参加者名簿を参照

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価

※　内容は、別添３：アンケート集計表を参照

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

平成２６年１２月に中央教育審議会から発出された答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～ すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために ～」、また、これを受けて平成２７年１月に文部科学大臣が決定した「高大接続改革実行プラン」、このプランの中に位置づけられた「高大接続システム改革会議」が同年９月に報告した「中間まとめ」までの一連の議論の流れを本学大学教育イノベーションセンターアドミッション部門の當山先生と大学入試センター研究開発部長の大津先生に解説をいただいた。大津教授が解説してくださったのは、主に「中間まとめ」であったが、改革会議の「最終報告」ではないために、論評を避ける形での解説であった。このため、参加者の中には「講演が中途半端」という印象を持たれた方も多いようであったが、その一方でこれまでの議論の流れや今回の入試改革の問題点が明確になり、改革の意義や実行性に疑問を持たれた方も多くいた。今回の FD では、これから進められようとしている、高校教育改革、大学教育改革、そして特に大学入学者選抜の改革に対する共通認識を持ってもらうことが主目的であった。FD のタイトルが「入学者選抜方法の改善に関するもの」という大きな括りであったため、タイトルと中身との不一致を指摘された方もおられたが、入学者選抜方法を改善するためには、それに関わる人々が同じ共通認識、課題意識を持つことが必要である。具体的な課題への取り組みの前に知っておいていただきたいことを今回は敢えて取り上げさせていただいた。

當山先生の話の重要な部分は、個別入試における「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」の評価であった。これらを実際に評価するに当たって、何をイメージすれば良いのかを、當山先生は、国際バカロレアのプログラムが掲げる学習者像を示して、解きほぐしてくださった。その学習者像とは、「探求する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念をもつ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りのできる人」である。これらの具体的な要素を質的・量的に評価することで、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」の評価につながるのではないかというお話であった。その検証を行うために現在 AO 入試を経て入学してきた学生について、さまざまな分析を行っておられるということであった。今後の進展を多くの参加者が期待していることが伺えた。

大津先生の話のエッセンスは、最後の２枚のスライドに凝縮されていた。それは、今回の「改革実行プラン」と「中間まとめ」に対する私見が述べられたものであった。新

しい共通テストに現在の大学入試センター試験より難しいと予想される「思考力・判断力・表現力」を問う問題をそもそも出題しても良いのかどうか。これらの「思考力・判断力･表現力」を問う問題を共通テストで出題しようという意図とその背景についても言及されていた。さらに、実施に移した際の運営上の課題についても示された。記述式問題の採点業務をどうするのか、また CBT の導入、記述式解答の採点に伴うコスト面での課題である。このように、今回の改革の実現性やまたそもそもの課題意識への疑問が明確にされたことにより、参加者からは活発に質問が出された。実現可能性が不明確な改革方法であることがわかったことにより、参加者から出された質問や意見は、ほとんどが改革を進めることへの不安を示すものであった。

最後に、閉会の挨拶の中で、現在の入学者選抜にまったく問題がないわけではないことが述べられ、今後はアドミションポリシーをより明確にし、それに従った入学者選抜方法を採用し、評価を実施していくことが、いずれにしても求められることである旨を話して散会とした。全体で３１名の参加者ではあったが、ほとんどの参加者は質疑の最後まで出席していた。その意味では時期を得た FD であったと言える。

１１．実施代表者の連絡先

氏名：松坂　誠應
職名：大学教育イノベーションセンター長
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp　　内線：２００３

１２．申請者の連絡先

氏名：吉村　宰
職名：大学教育イノベーションセンター　アドミッション部門長
e-mail：osamu@nagasaki-u.ac.jp　　内線：２１１７

FDアンケート集計表(出席者31名・回答30名・未提出1名)

Q1:役職名

教授	准教授	講師	助教	その他	合計
11	13	1	3	2	30

Q2:FDの内容は?

よかった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	合計
5	18	5	2	30

Q3:次回開催で希望するテーマは?

○ 主体性・多様性・協働性を公平に評価する方法
○ 具体例をふまえた内容がありがたい。
○ 内容、理解の熟成のために答申が出る度、など頃合いを見計らって、同様の講演会を開いてほしい。
○ どう作題するか。
○ 先進大学(長大レベルで)の話が聞きたい。
○ 評価の設定、考え方(中間まとめをふまえて)
○ 提出資料の点数化
○ 区分のない入試の設定の考え方
○ FDタイトルと内容が一致したものを実施してほしい。何をしたFDだったのか不明
○ オープンキャンパスや大学説明会の開催・参加の在り方について、参加経験のある教員の体験談をもとに、工夫の余地や他大学との差別化の方向性を探る会があるとよい。
○ 作題・試験のミスを防ぐ、リカバーのポイント。
○ 諸外国ではどのように大学入試、評価を行っているのか。
○ 具体的レベルでわかるようなものを聴いてみたい。
○ IDについて
○ 民間企業の社員採用について
○ 本学がどのような学生を求めるのか。

Q4:入試・作題に関する要望

○ CBはその性格上、問題をCLOSEにしないといけなくなるとのことであるが、(実際、共用試験CBTはCLOSEである)入試はオープンにすべきである。
○ 作題については、結局何を変化させるのかよくわからなかった。
○ 今までどおりの作題に「+記述式」の入試を行い、ユニーク、注目すべき解答者を多角的に注目して合格させるようなシステム(従来の入試+ユニークな入れ方)がよいのでは・・・。大きな改革は難しいと思います。
○ 学部毎で実施する入試について、問題作成を行ったあと、学内における専門家に最終確認を得る方法は取れないだろうか。例えば、英語の小論文の入試の設問や配点について、それが妥当なものであるかどうかは、学部内の(必ずしも英語の専門ではない)点検教員に任されているのが現状であるが、この方法は今後再検討する可能性はないのか。
○ 入試・作題のシステムそのもの(入門的な内容)が分からない。
○ 多様な分野(大学院の場合)の基礎学力、素養を計るのに最善は何か、一緒に検討、議論する機会がほしい。
○ FDタイトルと内容は一致していなかった。入試問題作成に関する内容はどこでしょうか。
○ 具体的な問題(作題)について、教科別の研修があればありがたい。
○ 入試問題を作成できない大学教員が多数いるような感じがするので、このようなFDを増やし、大学教員の意識改革をした方がよいと思う。(※そもそも、入試事務を雑用と思っている人が多数)
○ 作題グループを安定的に確保するシステムの確立が重要と思われる。現状でも懸念されているが、今後、新たな入試が行われる場合にはさらなる困難が予想される。
○ 作題人材の確保は費用も含めて、抜本的な改革・取組が必要である。
○ 推薦・AO入試の実施方法、問題の工夫など、経験、体験を通して、より意欲の高い生徒に入学してもらえる方式の検討会があれば。
○ 作題はかなりタイトな人員・時間でやっており、ミスがいつ出てもおかしくない状況なので、全学的にスケジュールや人員配置について考えて欲しい。
○ 教育学部文系のセンター試験の地歴・公民の選択肢が国内でも琉球大と長崎大教育学部でしか行っていないような特殊なものとなっている。その結果、意味なく一定数の高校生が受験できなくなっているので、変えた方がよいと思っています。高校教員からもその声を聴きます。

Q5：本FDの感想

○ 大学入試センターに現在の改革案(大学入試希望者学力評価テスト)で考えられる問題を真剣に検討してほしい。
○ 中間まとめの説明は面白くなく講師の大津先生の私見の部分に興味を持った。討議内容にはいろいろ考えさせられた。
○ 行政面からのお話が中心で、(大学教員の)現場に則したお話しがもう少しあれば良かった。
○ 講演を聴いて、実際に大学入試改革が実行できるのかという印象が強く残った。
○ 入試改革の概要は大まかに理解できたつもりではあるが、そのために何をすべきかはまだ見えません。
○ CBT導入予定とのことであるが、現実的には準備期間が短いのではないだろうか。
○ 今回の改革に関しては、どこかの国のモデルがあるのでしょうか。
○ 場所が分かりにくかった。MAPでどの棟か示してほしかった。
○ 質問が多く出て、活性化された集まりで面白かった。
○ 話が長くてまとまりがありません。
○ 小学生の子供がいるが、塾の親に対する講演での対策について聞いていますが。かなり食い違いがある。(特に英語)
○ 様々な入試問題FDがある中で、より具体的な入試業務を理解したいと思って参加したが、かなり抽象的な内容であった。
○ 入試問題FDはテーマ毎にフローチャートなどで示し、総論⇒各論といった流れにそって展開されるようにしてほしい、忙しい教員が貴重な時間を割いて参加されるものだから、より効率的なFDの運営が望まれる。
○ 忌憚のない質疑があり良かった。
○ 数百ページに報告書を分かりやすく説明いただき、ありがとうございます。議論の現状を理解できました。
○ 講演内容が中途半端であった。中教審等の内容説明だけであった。解説でもなかった。FDタイトルをきちんと付けてほしい。
○ パワーポイントのシート作成をもっと分かりやすいものとして欲しい。文章のコピペだけではないか。
○ 文字ばかりで、具体例のないモヤモヤした実現不可能なコンセプトばかりの状況だとよくわかりました。
○ コミュニケーションが苦手で、引っ込み思案で一人でコツコツ頑張る人がものすごい力を将来、発揮できるケースも多い、そういう国民の秘めた実力を認めないかのような新しい入試はそもそも止めるべきだ。
○ 大学も高校も文部大臣に振り回されそうです。
○ レーザーポインターは「○」の形ではなく「・」で表示してほしい。
○ 冷房が効きすぎて寒かった。(2名)
○ これからの大学入試の在り方、考え方について理解が深まりました。ありがとうございました。
○ 総論としては、ある程度理解できた。具体的に試験問題にどのように反映していくかについては、今後のFDでお願いしたい。
○ 「入試問題作成」と銘打たれた会だったので、現状の入試おける作題・実施方式について意見交換ができると思っていたのですが、的外れだった。
○ 講師の話が、長すぎるし内容も未確定の者が多く、検討する材料にもならなかった。また、この場で議論しても国の方向性を変えることにはつながらず、生産性がない。
○ すべてが混とんとして、「改革」という言葉だけが先行しているようだ。一部の意見・考えだけで改革している恐れがある。まるで「ゆとり教育」の時のような流れである。
○ 講師の先生は、公的ペーパーではないと言いつつ、各種答申の引用で文科省の立場で話しており、聞く側としては、どうとらえるべきか困る。
○ 高校側、大学側双方で試験評価をもうけることが、なぜ「高大接続システム」になるのか。という点に疑問がある。
○ 受験生の学習意欲がかえって低下する危険はないか。何をどう頑張ればよいか、どこへ向かって勉強すればよいか判然としないのではないか。
○ 多様性を評価可能な主体は何(誰)、どこか。
○ 現在どうされているのかがよく分かりました。今後の見通し、可能性についてもう少し具体的なレベルでこの先聞きたい。
○ 長崎大学の特色がなくなってしまう改革になる恐れがある、すべてを考える問題にしなければならないのか。(問題重複の恐れ)
○ 結局は机上の空論でしかない。テストの名前が変わっただけ、現実的な話をききたい。
○ 将来の大学入試改革の方向性とスケジュールを知ることができ、ためになった。
○ IRの方と結び付けて、入試が「アドミッションポリシー」を反映して予測力のある選抜ができないか。
○ 方針がよく理解できない。
○ 入試の意味が無くなっていくのではないか、講義は公開され学びたい者は誰でも学べる時代がくる最終的に具体的な問題解決により評価されるだろう。
○ 記述式の導入は問題が多いのではないか。
○ FDの開催時期が早いのではないか(未定の内容が多かったため)